



(Photo:奥田 怜奈(環境フォトコンテスト))

# 第3章

---

## 戦略が目指すもの

将来の世代が暮らす環境は、今を生きる私たちがどのような行動をするかによって大きく左右されます。このため、私たちの生命と暮らしを支える生物多様性を、より良い状態で将来の世代に引き継ぎ、市民がその恵みを持続的に享受していけるように、私たちの意思と行動によって実現させる、生物多様性から見た2050（令和32）年の望ましい将来像を示します。

## 1. 2050年の望ましい将来像

多様な生きものが棲む多様な自然環境が広がり、生物多様性が育む恵みに感謝し、自分たちの世代で使い果たしてしまうことなく、持続可能な方法で節度ある利用と保全・維持に努め、将来の世代へ大切に引き継いでいる自然共生社会

### (1) 2050年の都市域の姿

中心部や地域の拠点に生活利便施設が集約され、歩いて暮らせる生活圏が形成されるとともに、拠点間が公共交通機関等でネットワーク化された市街地が形成されています。

住宅地や道路、公園、学校、事業用地など街中のいたるところで、市民や事業者等との協働による緑化活動により、緑が増え、街中で市民が憩い、潤い、豊かな自然

環境を感じることができます。その緑は、景観や緑陰などの役割に加え、そこに集うさまざまな鳥やチョウなどの昆虫が見られるなど、生きものの生息・生育空間としての役割も担っています。

街路樹や河川敷、公園、河川などが形成する水と緑のネットワークは、鳥や昆虫、魚類、カニなどの休息する場として、またその間の移動経路として利用されています。

公園や学校に広がった緑の空間では、バッタやトンボを探す子どもたちの姿が見られます。

また、自然の恵みを生かした交流や行事、地域の人々が協力した緑の管理が行われ、自然とのふれあいを通して地域コミュニティが形成されています。

イメージ図



## (2) 2050年の農山村域の姿

森林は、市民、事業者の協力により適正な保全や管理・再生が行われています。また、林業は安定的な産業となり森林資源の適切な管理に向けた新たな管理システムが構築されています。自然性の高い森林や、間伐などが行われ、樹木が成長しやすいよう明るく管理された里山が増え、多くの生きものを育むとともに、災害防止や水源かん養、二酸化炭素の吸収による気候変動の緩和、木材や食料の供給などの機能を発揮しています。

里地では、AI<sup>注</sup>やICT<sup>注</sup>技術を活用したスマート農林水産業が普及し、気候の変化や人材不足に対応した効率的な生産体制が確立するとともに、農業の担い手の育成や地産地消の取組などにより、農業が活性化しています。また、生物多様性の保全に配慮した生産手法により、農業が行われているほか、イノシシなどによる農作物への被害の防止に地域ぐるみで取り組んでいます。

里地里山では、昆虫などを探す子どもたちや山野草を楽しむ大人たちの姿がみられ、緑豊かな雑木林や水田などでは、ウグイスなどの鳥類、カブトムシなどの昆虫類、マテバシなどの樹木等、多様な生きものたちが息づいていて、季節の変化に富んだ風景を創出しています。また、地域が育む伝統行事などがまちの魅力づくりに活かされ、次世代に伝えられているほか、観光客との交流、地産地消の取組により、活力に満ちた農山村域となっています。

イメージ図



注 AI…Artificial Intelligenceの略称で、学習や推論など人間の知能が持つ役割をコンピュータで管理する技術のこと。人工知能ともいう。

注 ICT…Information and Communication Technologyの略称で、情報通信技術のこと。

### (3) 2050年の水域の姿

河川は、清らかな水が豊かに流れ、河原には植物が茂り、瀬や淵、寄り洲などさまざまな環境をもった生きものの良好な生息・生育空間となっています。湖沼は生きものが暮らしやすい水質や水量が維持されて多様な動植物を育てています。

海から河川源流域、また、河川と用水路や水田の間では、生きものが自由に行き来しています。ホタルやトンボなどが飛び交い、家族や仲間で散策や生きもの観察を楽しむ姿などが見られ、市民にとって身近な自然とのふれあいの場となっています。

沿岸部は、シギやチドリ類が飛来する河口の干潟が保全され、砂浜や岩礁など自然豊かな海岸が保全・形成されるほか、アカテガニなど水域と陸域を移動する生きものに配慮されています。

錦江湾は、イルカ、タイなどの魚類、カツオドリなどの鳥類、さまざまな生きものが暮らせる環境があり、豊かな生態系が保たれた水産資源豊かな漁場として健全な漁業が営まれています。また、海水浴やマリンスポーツなどのレクリエーションの場として利用されるなど、恵み豊かな潤いと安らぎのある水辺空間となっています。

イメージ図



#### (4) 2050年の人と自然との関わりの姿

豊かな自然の中で、人が笑顔で元気に暮らしています。自然の中での遊びや体験、農山漁村への滞在型体験活動、生きものに関する読書や学習などの機会を提供する社会的なシステムが構築されており、子どもも大人も、人と自然との関わりなどについて気づき学び、郷土の環境を誇りとして大切に思う心や命の大切さを尊ぶ心など豊かな感性を育んでいます。また、家族や仲間と野山・海川を楽しむ姿や四季を味わう季節行事などがあちこちで見られ、地域の伝統行事なども継承されています。

持続可能な形で自然の恵みを活用する産業が生まれ、また、豊かな自然やそれに根ざした文化が鹿児島の観光資源として活かされています。

環境にやさしい農業で作られた農作物や環境への負荷が少なく環境保全に役立つとされる「環境ラベル」のついた商品などが提供され積極的に生活の中に取り入れたり、生物多様性からの恵みを活かし持続可能な形で活用している事業活動が評価され営まれるなど、生物多様性に配慮した生活様式や事業活動が定着しており、市民は雄大な桜島と錦江湾を代表とする郷土の自然を愛し、生物多様性の恵みに感謝しながら、21世紀後半も豊かな自然を将来の世代へ引き継ごうと積極的に取り組んでいます。

イメージ図



## 2. 2031年度の鹿児島市の姿

鹿児島市の2050年の望ましい将来像を実現させるために、本戦略の最終年度である2031（令和13）年度の鹿児島市の姿を次のように設定し、具体的な取組の展開を図ります。

人々は、生物多様性の意味や価値、その恵みを実感しており、将来に向かって持続的に恵みを楽しんでいくため、さまざまな主体が連携・協働して生物多様性の損失を止めるための取組を進めている。

## 3. 取組の基本方針

次の3つの基本方針に基づき、総合的かつ計画的に取組を進めます。

### 【基本方針1】生物多様性を支える自然環境の保全・育成

森林・緑地等の保全や緑化の推進、外来種の駆除等により、鹿児島市らしい多様な生きものの生息・生育の場である自然環境を守り育みます。

### 【基本方針2】生物多様性を支える活動の促進

生物多様性に関する情報の収集・発信や生物多様性に関する取組を促進する人材の育成を推進することにより、具体的行動へつなげるとともに、連携・協働による取組を促進します。

### 【基本方針3】生物多様性の恵みの活用

自然とのふれあいや観光・産業資源としての有効活用、生物多様性をういた防災・減災の推進等、生物多様性の恵みを暮らしや社会経済活動の資源として持続可能な利用を図ります。



## 4. 取組の横断的視点

3つの基本方針において横断的に考慮すべき視点として次の2点を設定します。

### 連携・協働の視点

生物多様性の保全と持続可能な利用のためには、市民、事業者、市民活動団体、市などがそれぞれの長所を生かし、連携・協働して取り組むことで、より効果的なものとなり、さらに発展することが期待されることから、連携・協働の視点が必要です。

### 長期的な視点

生きものの生息・生育を安定的に確保するためには長い期間が必要であることから、取組のあり方などについて長期的な視点から考えることが必要です。

## 5. 取組の段階

各基本方針において、3つの取組の段階を考慮して施策を実施します。



### 気づく

暮らしや活動と自然との関係（恵み・脅威）、生態系の仕組みなどについて気づき、興味・愛着を抱くようになることを目指した施策事項



### 考える

地域にとって好ましい自然とは何か、市民、事業者、市民活動団体等のさまざまな立場で何ができるかを考えることを目指した施策事項



### 行動する

本市の恵み豊かな自然を持続可能な方法で利用しながら守り育み、より良い状態で将来の世代へ引き継いでいけるようみんなで行動することを旨とした施策事項

## 6. 各主体に期待される役割

本戦略の推進にあたっては、市、市民、事業者、市民活動団体等、それぞれの主体が自主的に、また協働して取り組むことが重要であり、それぞれの主体には、以下のような役割や取組が期待されます。

### (1) 市の役割

私たちが生きていくために不可欠である多くの生態系サービスが、生物多様性によって提供されているという認識を全職員で共有し、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、市自らが事業者として、生物多様性に配慮した行動を率先して実践する役割があります。

- 本戦略の着実な推進のため、必要な施策と進行管理の実施
- 各主体がそれぞれの役割を果たすための支援
- 各主体の連携・協働の機会や場づくり
- 鹿児島県や近隣・全国の自治体、国、その他生物多様性の保全活動を行う団体等との連携

### (2) 市民の役割

市民は、生物多様性が暮らしと密接に関係していることを理解し、このことを自分事として捉え、環境に配慮した暮らしを実践するとともに、他の主体と協力して生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献する役割が期待されます。

- 近くの里山や海川などの自然、平川動物公園、かごしま水族館、観光農業公園などで、積極的に自然や生きものとふれあい、生物多様性について気づき、考える
- 自宅から出るごみや汚水を削減し、自然に与える影響を減らすとともに、商品を購入するときに生物多様性の保全に配慮した商品を選んで購入するなど、生きものに優しい暮らしの実践
- 庭に水辺を作ったり、誘鳥木や吸蜜植物を植栽するなど、生きものが好む空間の創出
- 自然と関わりのある行事や市民活動団体等が行う生物多様性などの学習・体験活動への積極的な参加・協力
- 体験したことや気づいたことを家族やまわりの人に伝える
- ペットなどの生きものを野外に放さない

### (3) 事業者の役割

事業者は、環境に配慮した事業活動を行うとともに、環境保全活動へ参加・協力し、生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献する役割が期待されます。

- 第1次産業関係者は、事業活動が生物多様性の恵みを楽しむものであり、生物多様性が健全に維持されることで成り立つものであることを認識し、生物多様性の保全を重視した事業活動や里山・里海の保全活動を進めます。
- 第2次産業関係者は、原料の調達から製品の廃棄に至るまでの過程における生きものへの影響について考え、評価し、その影響について可能な限り低減を図ります。
- 第3次産業関係者は、市民や他の事業者は、生物多様性に配慮した製品・サービスの提供や、それらの情報提供を行います。

- 事業活動と生物多様性との関係について、気づき、考える
- 生物多様性の保全に配慮した原料調達など、生物多様性に配慮した事業活動の実施
- 減らすことができない影響については、別の方法で埋め合わせる（オフセットする）
- 生物多様性の保全に配慮した製品であることが消費者にわかるように表示するなど、市民向けに生きものに優しい生活の提案
- 生物多様性の保全活動を行う団体等への支援や、市が実施する事業等への協力

### (4) 市民活動団体の役割

環境活動に取り組む市民活動団体は、自然体験の機会の提供や森林保全活動等を積極的に展開するとともに、生きものの現状や変化など地域の生物多様性について継続的に把握するための調査活動等を実施する役割が期待されます。

また、その他の団体は、社会貢献、地域貢献として環境に配慮した活動に取り組むとともに、生物多様性を高めることに配慮した緑化や生きものとの接し方等について会員や参加者への普及啓発を行う役割が期待されます。

- 生物多様性に関するモニタリングや外来種駆除、森林保全活動など、主体的な活動の継続的な実施
- 環境学習の担い手として自然体験の機会の提供や生きものの調査など、積極的な活動の実施
- 市や事業者などへの情報提供、提言
- 各種団体の活動における生物多様性に関する学習や普及啓発の実施

### (5) 教育・学習を行う者の役割

教育・学習を行う者は、自然体験活動など生物多様性を実感するための機会を教育・学習に取り入れるとともに、生物多様性の保全と持続可能な利用等に関する教育・学習を進める役割が期待されます。

- 身近な自然や生きものに対して興味・関心をいざくことができる、学びや体験の機会の提供
- 自然体験活動を取り入れた教育・学習の推進
- 生物多様性の保全に取り組む人材の育成
- 生物多様性に配慮した緑化等の実施
- 市や市民活動団体などが実施する事業等への積極的な参加
- 各教科のさまざまな単元と結びつけた生物多様性についての学習機会の提供

### (6) 専門家の役割

研究者など専門家は、生物多様性に関するデータの収集や生態系の保全・再生等に関する調査・研究を実施するとともに、専門的な知見や技術に基づき科学的な情報を整理し、市、市民、事業者、市民活動団体等に対する情報提供や普及啓発、提言などを行う役割が期待されます。

- 生物多様性を保全・再生する技術開発や、生物多様性に関する調査研究の実施
- 市、市民、事業者、市民活動団体等への専門的な視点からの情報提供・助言やアドバイスの実施
- 次世代を担う研究者や技術者の養成

### (7) 来訪者の役割

旅行者など本市を来訪した方は、鹿児島島の文化や自然にふれ、それにつながる生物多様性の恵みを感じるとともに、その生態系に影響を与えないように配慮するという役割が期待されます。

- 生態系に影響を与えないように配慮し、鹿児島島の自然による生態系サービスを十分に享受する
- 鹿児島島の自然のすばらしさを理解し、そのことを多くの人に伝えるよう努める